

## 第1回丹波新地域ビジョン検討委員会 記録

1 開催日時 令和2年7月29日(水) 18:00～20:00

2 場 所 柏原総合庁舎 柏原職員福利センター 1階会議室

3 出席者

委 員 (五十音順)

安達委員、足立委員、角野委員、構井委員、岸委員、清水(夏)委員、  
清水(徳)委員、鈴木委員、瀧山委員、竹見委員、谷水委員、中川委員、  
宮垣委員

※欠席委員：上甫木委員、土性委員

丹波県民局(事務局)

飯塚丹波県民局長、柳瀬県民交流室次長、西原班長、竹村

4 内 容

(1) 開会

- ・飯塚丹波県民局長あいさつ
- ・委員自己紹介

(2) 委員長の選任

- ・岸委員からの推薦により、角野委員を委員長候補に選出
- ・他委員の賛同により、角野委員が委員長に就任
- ・委員長の指名により、清水(夏)委員が副委員長に就任

(3) 新しい将来ビジョンの進め方について

- ・【資料1】により、事務局から説明

(4) 丹波地域の現状について

- ・【資料2～4】により、事務局から説明
- ・【資料5】により、角野委員長から説明

(5) 検討委員会の今後の進め方について

- ・【資料6】により、事務局から説明

(6) 意見交換

〔委員〕

(配付資料は事前に送付しておらず当日配布したため) 次回の会議からは事前に送付してほしい。全てに目を通すことは難しいが、各委員がそれぞれの専門分野にかかる部分を読み、会議の場で何を発言するかの準備をすることはできる。

**〔事務局〕**

ご意見について承知した。次回から資料は事前に送付する。

**〔委員〕**

この委員会で検討し出来上がったビジョンは、何に使われるのか、どんな役目を果たし、どういう位置づけになるのかを知りたい。

**〔事務局〕**

全県のビジョンと併せて、冊子を制作するという事でひとつの形にはなる。これは地域ビジョン委員のこれからの活動の指針や、丹波地域がこれから目指す将来像の指針となる。

また、県民局でやっている事業を含め県の予算要求は、長期ビジョンに基づき実現させていく。ビジョン委員の活動についても、そのビジョンの実現に向けて、活動に取り組んでいただくことになる。

**〔角野委員長〕**

ビジョンに書いていないと予算要求がしづらい。ありていに言えば予算要求の根拠にもなるということ。その上で予算がつくことになれば、そのビジョンの推進のために、行政に任すのではなく、地域の人自分ごととしてビジョンの推進のためにしっかり活動してくださいね、という意味にもなる。

**〔委員〕**

ビジョンや計画をつくるのは手段であり、目的ではない。ビジョンをつかって、その後地域をどのように変えられるかが本当の目的になると考える。そのような意味で、丹波篠山市、丹波市の総合計画との関係性を考えるのは重要だと考えるが、今回のビジョンはどのように位置づけられるのか。

また、丹波篠山市が現在、総合計画の策定作業をされているが、両者が同時並行的に進んでいるので、その整合性がとれるのかどうか。

**〔事務局〕**

ご指摘のとおり、両市の総合計画との整合性は図っていかなくてはならない。そのためにも両市の担当課長様には委員に就任いただき、県と相互に意見交換をしながら進めていきたいと考えている。

丹波篠山市の総合計画の策定スケジュールについては、後日確認しておく。

**〔委員〕**

今回新たなビジョンをつくる際に、前回ビジョンの評価・検証はどのように位置づけられるのか。

**〔事務局〕**

前回のビジョンは10年前に改定されたものだが、検証という観点も踏まえながら、次回の会議では地域の課題や取り組んできたことの結果といった部分を掘り下げて、数値等で示し、より深い議論ができるようにしたい。

**〔角野委員長〕**

そのような意味で、来年には月に1回という頻度での会合が必要となってくる。どのようなビジョンや計画であれ検証は不可欠。前回のビジョンでは何ができなかったのか、社会環境がどのように変化したのか、など考え、20年、30年先を我々で議論していきたいので、皆様にはご協力いただきたい。

**〔委員〕**

先ほど両市の総合計画との整合性の話があったが、丹波市の情報をお伝えしておく。丹波市は昨年度、第2次となる総合計画を策定したが、他にもまちづくりビジョン、丹（まごごろ）の里創生総合戦略といったものもある。

それぞれ目標年次が10年後、20年後、30年後と異なるので、そのあたりも加味した上で、今回の新ビジョンも考えていきたい。

**〔委員〕**

ビジョンや計画づくりは、それを作る過程や検討されることそれ自体が目的でもある。その過程をできるだけ地域の方のお伝えしていきたい。そのことによって、委員だけではなくて、地域の皆さんが考えていくビジョンとなる。また今回お集まりいただいている皆様は各分野の代表。それぞれの持ち場において、SNS等で委員会の様子を発信・情報収集することで、丹波地域全体で作り上げたビジョンだという意識にもつながる。

**〔事務局〕**

ご指摘のとおり、できるだけ広く発信していく方向で考えている。会議についても公開とし、議事録はHPで公開する。

**〔委員〕**

農業の分野でいうと、資料2の農林業センサスのデータは5年に1度更新されるもの。今年が更新の年となり、11月頃には数値が出てくるものと思われるので、そのデータを見ながら議論をしていきたいと考えている。

農業の世界では、1つの田んぼでかかるコスト、獣害、作っているものなどが様変わりしてきていると感じている。その辺りも吟味しながら新ビジョンを考えていきたい。

**〔委員〕**

今後開催する会議では、事前にその日に議論するテーマを教えてほしい。今回は初顔合わせの場でもあり、全体像の話が中心であった。そのような全体感を見て、各委員が意見を言うことは難しい。例えば、「人口減少が進む中でより住みやすい丹波にするためにどうすればよいか」といったテーマを事前に教えてもらえれば、各委員がデータとともに各論での議論がしやすいのではないかと考える。

**〔委員〕**

丹波市では昨年度、総合計画・戦略を策定したが、これまで成長を前提としていたものを見直し、人口ビジョンを含め全てを下方修正した。一方で現実を直視し、持続可能なまちをつくらうということでまちづくりビジョンができた。今回の新ビジョンは地域固有の大胆なビジョンをつくるということだが、この「大胆さ」をどのような見せ方をしていくのか。より住民の方が共有できるものとしてビジョンを考えていくにあたり、この「大胆さ」はキーワードになってくると思う。そのような部分も委員の皆さんが認識を持ち、どのような視点で考えていくかということが重要になってくるのではないかと考える。

**〔委員〕**

丹波市の計画づくりにこれまで関わった経験から申し上げると、コロナの影響で、都市部の方がより地方で暮らすことになることが考えられる。その反面、丹波地域と同じような条件の地域は他にもたくさんあり、各地域はますます辛くなるのではないかと議論も出てきている。

また、華々しい総花的なビジョンを掲げても、地域の方がそれを見たときに、行政や委員の方が作ったビジョンだという認識を持ち、全く相手にされないことがある。出来上がったビジョンを見て冊子を手にとったときに地域の方が何を思うのか、というところまで責任をもって、毎回の会議で議論を重ねるべき。

楽しく明るいビジョンをつくるか、実現可能なところでお金の算段も考えながらビジョンをつくるか。各分野から優秀な委員が集まっているので、どのようなビジョンでもつくることはできると思う。その意味で、どこを目指してビジョンを作っていくのかということをお願いしたい。ただ、いわゆる行政がつくる「美しいビジョン」は作りたくないというのが正直な考えとして持っている。県民局としての本音の部分も、今後示して行ってほしい。

**〔事務局〕**

今の時点ではビジョンの方向性を確定的に示すことはできないので、12月の全県の骨子案を受けてから、テーマごとに絞って議論していきたいと考えている。それまでの間は、様々な資料やデータを集めて、本格的なスタートアップに向けた準備をしていく。12月以降に再度、どのような方向性で進めるかを含め、改めて説明をさせていただきたいと思う。

**〔委員〕**

30年後の未来を考えるとどうしても、若者だけでなく高齢者の意見も取り入れるべき。例えば地域の農業を担っている高齢者、耕作放棄地の活用などに取り組んでいるのは高齢者。

また、SNS等で発信することそれ自体はよいことだが、そのツールを扱えないような方はどうすればよいか。多くの方の意見を取り入れてビジョンをつくっていくのであれば、全体的な視点で考える必要がある。一方で前回ビジョンの見直しもする中で、事細かに見ていかなければならない部分もある。絵に描いた餅にならないように、しっかりと進めて行ってほしい。

**〔事務局〕**

今後8月以降、ヒアリング調査として、地域の様々な団体に意見聴取を行う。デザイン会議は若者が中心だが、このヒアリング調査では若者以外のあらゆる世代からの意見を吸い上げ、この検討委員会でも諮ることとしている。

**〔委員〕**

丹波地域のビジョンを考えるにあたり、どこまでの範囲・視点で考えればよいかという話だが、丹波の場合、兵庫県内だけでなく京都丹波ともつながりが大きい。兵庫の中の丹波というだけでなく他の視点でも丹波を考えていくこともよいのではないか。

**〔委員〕**

全県の骨子案を見ながら、という話があったが、あまり気にしなくても良いのではないか。そこに引っ張られるよりも、地域に根ざして現場で実践されている委員が、それぞれの分野で感じている課題や今後の展望をベースにつくりあげていかなければ、各地域でビジョンをつくる意味がないと感じる。

この委員会のメンバーの強みは、現場で実践している専門家の集まりで、現場のことがよくわかっている点。各分野のそれぞれが自分事ごとのビジョンをつくり、それを一般化してまとめる形でビジョンをつくっていけば、ビジョンに基づいた各分野での活動の展開もしやすくなる。

総合計画などは「行政の施策の柱」という性格が強いのかもしれないが、今回つくるビジョンはそのような考え方よりも、「実践者を増やしていく」という視点から、ビジョンを考えることも必要なのではないか。

**〔事務局〕**

全県の骨子に沿うといっても、それにまるっきり沿うというわけではない。ある程度大きな枠組みとして全県の骨子案があり、そのうえで各地域のビジョンを考えていくことになるが、総花的にやるのか、特定の分野に絞ってや

るのかという議論も、本庁でされているところ。

いずれにしても次回の会議で、もう少し具体的な話ができると考えている。

**〔委員〕**

これから、前回ビジョンの評価・検証を行っていくということだったが、次回以降へのヒントとして事務局に伺いたい。

我々委員のように現場でやっている人間としては、各分野の現場のことは見えていてその声を代弁することはできるが、全体の大きな部分が見えていないところがある。その中で、例えば県民局として「最近はこのような点を注視している」とか「丹波地域はこのような部分で危機感を感じている」といったことはあるか。例えば資料3の中そのような点があれば伺いたい。

総花的に考えていくことも可能だろうが、どこに落とし込んでいくかという考え方があれば、次回以降のヒントにもなると思う。

**〔事務局〕**

例えば資料3の13ページ、「地域作りの担い手が育っていると感じる人」の割合は、平成25年度は32.8%であったのに対し、令和元年度には18.8%と大きく減少している。逆に、同じページの「住んでいる地域に誇りや愛着を感じる人の割合」は平成22年度の47.4%から、令和元年度には69.2%と上がってきているのは嬉しいところである。

(そのほかの指標の変化についても、数カ所紹介し、) 感想的なところではあるが、今申し上げたようなところが、数値で見ると心配なところ、あるいは嬉しいと感じる部分である。

(7) 閉会